

4. 豆知識

4.1. 山手外国人墓地

墓地内は非公開ですが、3~12月の週末・祭日の午後



図7 エドモンド・モレル墓

墓地内では、ところどころで歴史に記録される人の墓に巡り合います。

例えば、我が国の鉄道建設に足跡を残した建築師長エドモンド・モレル。シドモア桜で知られるエリザ・シドモア。その墓脇にある小説家・中島敦の文学碑は散策途中に良く立ち寄られたからとか。

4.2. 山手 80番館遺構

明治末~大正初期の建築、1899(明治32)年に居留地制度は撤廃され



図8 山手 80 番館遺構

す。しかし関東大震災前は居留地時代と同様の状況だったそうです。

この遺構も居留地時代の趣を色濃く留めています。頑丈そうですが大地震でもろくも崩れ去る、改めて居留地時代の終焉を感じさせます。

4.3. ベリー提督命名の地名

江戸時代末の来航時に江戸湾東岸の要

所に命名しました。観音崎近くの旗山崎をルビコン岬、未知の江戸湾奥に入り込む心境の発露でしょう。市内は次の名前が確認されますが、ブラフは航海の目安でもあり、印象深かったことでしょう。

- 1. 横浜 Yoku Hama
2. 根岸湾 Mississippi Bay
3. 本牧十二天 Mandarin Bluff
4. 本牧鼻 Treaty Point

5. 参考文献

- (1) 中区制 50周年記念事業実行委員会編著 「横浜・中区史：人びとが語る激動の歴史」 (1985 中区制 50周年記念事業実行委員会)
(2) "中区わが街"刊行委員会編「中区わが街 中区地区沿革外史」(1986 横浜市中区)
(3) 横浜市ふるさと歴史財団編「横浜歴史と文化 開港 150周年記念」(2009 有隣堂)
(4) 小寺篤「横浜山手変遷誌」(1980 山手資料館)
(5) 横浜市教育委員会編「横浜山手：横浜山手洋館群保存対策調査報告書」(1987 横浜市教育委員会)
(6) 鳴海正泰「有隣新書 61 横浜山手公園物語」(2004 有隣堂)

6. 引用

- 表紙 三橋兄弟治「教会の見える風景」(1939 横浜市民ギャラリー一所蔵)
図1 「横浜吉浜橋河岸ヨリ山手ヲ望ム」(1900-1922 横浜市中央図書館所蔵)

寄り道で歴史に遭遇 山手本通りを辿る



三橋兄弟治 「教会の見える風景」(1939 横浜市民ギャラリー一所蔵)

キーワードはブラフ ("Yamate Bluff"あるいは "The Bluff")。ここでは外国人居留地のあった現横浜市中区山手町と同義です。

この案内は、外国人墓地や西洋館の集中する観光エリアを訪れる皆さんへ寄り道のお薦めです。観光エリアから少し外れたところに残る、居留地時代の面影に、一カ所でも二カ所でも寄り道してみませんか。

起点は JR線石川町駅、終点はみなとみらい線元町・中華街駅、主に山手本通りを進みます。逆コースも可能です。

距離は寄り道なしで約 3 km、標高差は約 50mです。歩行時間は約 1時間 15分ですが、寄り道および観察時間、西洋館内見学などは含みません。



四次元的路上観察の自主活動グループ 時をかけるヨコハマ

四次元的路上観察案内書「1.山手本通りを辿る」●企画・編集：ハマトリーツ！(横浜トリエンナーレサポーター) 自主活動グループ「時をかけるヨコハマ」(内藤恵美,原田貴己,深野一穂,宮崎秀一,ゆかりん,レイミホ,匿名希望 22名) ●イラスト制作(山下昇) ●発行日: 2017年 9月 18日 ●発行・問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局 [横浜市西区みなとみらい 3丁目 4-1 横浜美術館 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内 Tel:045-228-7816 Mail:info@yokotorisup.com] ●ハマトリーツ! 公式 WEB:http://www.yokotorisup.com/

-4-

-3-

-1-

-2-

居留地時代、外国人は山手のこのエリアに開かれ、住宅として発展します。1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)

2.2. 積み擁壁 (The Bluff)』と記述します。崖を意味します。ある辞書は「横浜山手(1900-1922) 山手望△(1900-1922) [切り立った]

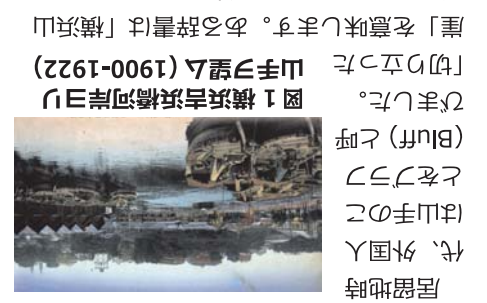


図1 横浜吉浜橋河岸ヨリ山手望△(1900-1922)

2.1. 山手本通りを特徴づける基本用語
観光地区は山手の尾根道沿いで。左側に西洋館などの観光名所が点在して、多くの人が訪れるこの尾根道沿いのルートを基本ルートとします。案内図では点線を示します。案内図では基本ルートを示します。
ちよいと足利ルートは、基本ルートを逸れる短い寄り道です。案内図では実線で見えます。
ちよいと足利ルートは、基本ルートを逸れる短い寄り道です。案内図では実線で見えます。

1.2. ちよいと足利ルートとは
観光地区と云われます。山手町は住宅街ですが、その北西部一帯が観光地区と云われます。
旧山手居留地の範囲が現中区山手町です。ここでは山手町を山手として、山手町は住宅街ですが、その北西部一帯が観光地区と云われます。

2.5. 地盤
山手は10cmの石柱。足下にも歴史が残ります。地面から数メートルは、形状は異なる。地盤は、境界石、地番を明示する。山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)

2.4. 敷地境界石
所々に見られる敷地境界石、地番を明示する。山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)



図4 敷地境界石

2.3. フラッシュ
伊豆石の一角を円弧上に削り、二枚突き合わせてでける中央の溝に雨水を流す。山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)



2.2. フラッシュ
山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)

3.5. 教会の見える風景
大規模な積み擁壁が続き、多くの皆さんが公園内を通行しますが、外側にも歴史が残ります。

3.4. 額縁の積み擁壁
階段手前脇に積み擁壁が続き、多くの皆さんが公園内を通行しますが、外側にも歴史が残ります。

3.3. 元街小外周の積み擁壁
元町増徳院境内を築き、現在の学校。現在地には、大規模な美しい積み擁壁が残り、多くの皆さんが公園内を通行しますが、外側にも歴史が残ります。

3.2. フェリス坂の積み擁壁
西野坂が本来の名称です。門外からの観察ですが、坂の途中のフェリス女学院中・高等学校通用門脇にV字型に見える積み擁壁が続き、多くの皆さんが公園内を通行しますが、外側にも歴史が残ります。

3.1. 山手公園
日本初の西洋式公園、見所多敷です。公園内に向かう途中、フェリス女学院大の敷地内には、積み擁壁が続き、多くの皆さんが公園内を通行しますが、外側にも歴史が残ります。

3.0. 南坂の積み擁壁
橋の見た風景は今も残っています。三からその場所は推定できそうです。三からその場所は推定できそうです。

2.9. ちどり坂下の積み擁壁
ムシナ坂とも。坂を下りきった辺りが旧海岸線、ここから先は埋立です。振り返って見上げる積み擁壁、黒船でやってきたペリー提督も船上から見つめたことでしょうか。少し離れた本牧十二天の崖をマウンテン積み擁壁と命名しています。

2.8. 陣屋坂の積み擁壁
かなり急傾斜とわかります。積み擁壁が続き、多くの皆さんが公園内を通行しますが、外側にも歴史が残ります。

2.7. 尻尾坂上の積み擁壁
ムシナ坂とも。坂を下りきった辺りが旧海岸線、ここから先は埋立です。振り返って見上げる積み擁壁、黒船でやってきたペリー提督も船上から見つめたことでしょうか。少し離れた本牧十二天の崖をマウンテン積み擁壁と命名しています。

2.6. 南坂の積み擁壁
橋の見た風景は今も残っています。三からその場所は推定できそうです。三からその場所は推定できそうです。

2.5. 地盤
山手は10cmの石柱。足下にも歴史が残ります。地面から数メートルは、形状は異なる。地盤は、境界石、地番を明示する。山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)

2.4. 敷地境界石
所々に見られる敷地境界石、地番を明示する。山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)

2.3. フラッシュ
伊豆石の一角を円弧上に削り、二枚突き合わせてでける中央の溝に雨水を流す。山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)

2.2. フラッシュ
山手は、1867(慶応3)年に居留地は丘と斜面に拓けられ、土留に用いた。斜面のたのグラ(積み擁壁)の積み擁壁)

2.1. 山手本通り
観光地区は山手の尾根道沿いで。左側に西洋館などの観光名所が点在して、多くの人が訪れるこの尾根道沿いのルートを基本ルートとします。案内図では点線を示します。案内図では基本ルートを示します。



図6 カトリック山手教会

7. ルート案内

●歩きは始める前に

- ・起点：JR線石川町元町駅
- ・終点：みなとみらい線元町・中華街駅
- ・距離：約3 km、歩行時間約1時間15分、ただしちよい足しなし、観察時間等を含みません
- ・区間名(A~J)の後の()内は、およその区間所要時間です
- ・ルート of 左右にずれた番号は、観察物が左あるいは右側にあることを示します
- ・点線で基本ルートを、実線でちよい足しルートを示します。
- 同じく細字で基本ルートを、太字でちよい足しルートを示します
- ・観察点番号の前の記号は、次を意味します
 - ★案内あり、●パブリックアート、■歴史・史跡
- ・観察点の太字表記は推奨、細字表記は任意です
- ・次の次の観察点まで確認して進んで下さい



- 1. JR 線石川町駅
- 2. 震災地蔵
- 3. ブラフ 18番館
- 4. 外交官の家
- 5. カトリック山手教会

A : 山手公園 (約 20分)

- 6. 山手教会外周のブラフ積み擁壁・ブラフ溝
- 7. フェリス女学院大学外周のブラフ積み擁壁・ブラフ溝
- 8. おそらく敷地境界石 37番
- 9. 日本庭球発祥の地碑
- 10. 周辺にヒマラヤ杉
- 11. テニス発祥記念館 (見学可)
- 12. 山手公園発祥 120周年記念碑
- 13. 山手 68番館 (見学可)
- 14. 奏楽堂
- 15. 山手公園碑

B : フェリス坂のブラフ溝 (約 5分)

- 16. フェリス女学院中学校・高等学校 通用門前から見るV字溝に見えるブラフ溝

C : 元街小外周のブラフ積み (約 8分)

- 17. 元街小学校外周の大規模なブラフ積み
- 18. 代官隧道 (ずいどう) 山手本通りと立体交差するトンネル

- 19. ベーリックホール

D : 額坂のブラフ溝、他 (約 10分)

- ★ 20. ブラフ溝モニュメント
- 21. 敷地境界石 75番 道を挟んでモニュメントの反対側
- 22. ブラフ溝 階段脇、途中で引き返す
- 23. 山手 80番館跡
- 24. エリスマン邸

E : 教会の見える風景 (約 6分)

- 25. 「三橋兄弟治 (いとじ)・教会の見える風景」 写生地を推測しながら

F : 南坂の大規模ブラフ積み (約 10分)

- 26. ブラフ積み (コルティエー山手町外周)
- 27. ビール井戸

- 28. 諏訪神社
- 29. プリキのおもちゃ博物館
- 30. 山手聖公会
- 31. 山手 234番館
- 32. 山手資料館 (有料)
- 33. 居留地境界石 (山手十番館前)

G : 見尻坂上のブラフ積ほか (約 5分)

- ★ 34. ブラフ積み擁壁モデル
- 35. 横浜地方気象台外周のブラフ積み擁壁
- 36. 個人宅外周のブラフ積み擁壁

H : 陣屋坂下のブラフ溝 (約 5分)

- 37. 坂下の両側に 8mほどのブラフ溝

- ★ 38. ゲーテ座跡
- 39. 港の見える丘公園
- 40. イギリス館 (英国海岸病院跡)
- 41. 山手 111番館
- 42. 神奈川近代文学館
- 43. 霧笛橋

I : ちどり坂下のブラフ地形 (約 6分)

- 44. 左右に延びるかつての海岸線と海蝕崖

- 45. 唱歌「港」歌碑
- 46. 大佛 (おさらぎ) 次郎記念館
- 47. 花壇
- 48. ローズガーデン
- 49. 展望台
- 50. 港が見える丘歌碑
- 51. レンガ造り井戸遺構
- 52. 愛の母子像
- 53. フランス領事官邸跡
- 54. 大野林火句碑

J : 谷戸坂裏坂のブラフ積 (約 5分)

- 55. フランス山外周の大規模ブラフ積
- 56. クリーニング業発祥の地碑
- 57. 横浜ボウリング発祥の碑
- 58. パビリオン・バルタール
- ★ 59. 機械製氷発祥の地碑
- 60. みなとみらい線元町・中華街駅